

CSCLによるLMSの利用率向上と主体的・協働的な学びの促進 — 新入生の興味・関心を活かしたアクティブ・ラーニング型授業の一事例 —

Improvement of LMS Usage Rate and Enhancement of Active/Collaborative Learning by CSCL

— A case example of active-learning oriented class utilizing
interest and curiosity of new students —

庄司 一也

Kazuya SHOJI

健康医療スポーツ学部

Faculty of Health Care and Medical Sports

帝京平成大学

Teikyo Heisei University

Email:k.shoji@thu.ac.jp

あらまし：本学では以前より学生のLMSの利用率の低さと主体性や協働的な学習態度に課題があった。そこで両者を解決することを目的として、初年次教育科目「コンピュータ演習Ⅰ」においてCSCLを取り入れ、自己紹介やそれに対する返信、さらには成果物の公開、他者との共有などを試みた。その結果、以前よりLMSの利用率が向上し、同時に主体的・協働的な学びも促進された。

本稿では上記の実践報告を行い、新たに表面化した課題について考察する。

キーワード：CSCL, manaba, アクティブ・ラーニング, 新入生, 興味・関心

1. はじめに

以前より本学のLMS利用において、学生の利用率の低さのほかリテラシー面の課題が存在した。そこで筆者はまず「LMSにより多くアクセスすること」、そして「アクセス増によって、LMSリテラシーを向上させること」を意図して、LMS電子掲示板機能を利用したCSCL(Computer Supported Collaborative Learning コンピュータ支援による協調学習)に取り組んだ。

本学の全学科・全コースの1年次必修科目「コンピュータ演習Ⅰ」で、2年間に渡ってCSCLに取り組むことで、LMSの利用率向上はもちろんのこと主体的・協働的な学びも促進することができた。特に今回は「新入生の興味・関心を活かしたLMS活用(アクティブ・ラーニング型)授業」を展開した。

本稿では上記CSCLの取組を紹介するほか、アクセス数の向上についても触れ、またこれらの取組から明らかになった課題を考察する。

2. 初年次教育科目でCSCLに取り組むことの意義と実践内容

今回は本学の全学1年次必修科目「コンピュータ演習Ⅰ」においてCSCLの取組を紹介する(なお、「コンピュータ演習Ⅰ」は、Windowsの基本操作、Word、Excel、PowerPointの基本操作、情報倫理、情報セキュリティについて学ぶ科目である)。本研究の対象クラスは、健康医療スポーツ学部看護学科1年次の「月曜1・2限クラス」と「火曜4・5限クラス」とする。理由は1年次科目といっても後期(秋学期)に開講する学科・コースもあるなかで、上記の看護学科クラスは前期(春学期)に開講されるためであ

る。つまり、入学してすぐに受講する科目となる。

筆者がCSCLで意図していることの1つに、他者とともに学び、同時に人間関係の基礎構築に寄与させるといふものがある。そしてLMS電子掲示板の授業利用においては1年目(2018年度前期)は「自己紹介」だけであったが、2年目(2019年度前期)は以下の4つのケースで実施した。

- | |
|------------------------------|
| ①自己紹介&コメント(4月) |
| ②Wordで作成したチラシ提出(5月) |
| ③メール練習(6月) |
| ④PowerPoint自己紹介プレゼンの振り返り(7月) |

これらの実施理由としては、①については入学後間もない時期での自己紹介のWEBによる代替である。いくつかの授業で対面で行っているであろう行いを電子掲示板を利用することで「文字(文章)」で説明することを意図した。②については、Wordの成果物を、本来はLMSレポート等に提出(アップロード)することで「担当教員と提出学生のみ閲覧・指導」となるところを、クラス全員で閲覧できるようにした。③についても同様で、電子メールの送信練習でメールの文面を担当教員だけ閲覧できるのではなく、クラス全員が閲覧することで、「他者のメール内容を見て学ぶ」ということをねらいとした。④については、PowerPointを使用して対面で全員が受講生の前で自己紹介プレゼンを行う課題があるが、終了後の振り返りを電子掲示板で行うことで「他者がどのように学び、どのように感じたか」を共有することをねらいとした。

特に②については、チラシの完成度が高い者をLMSアンケート機能を使用して投票し、④についてもプレゼン優秀者についてアンケート投票を行い、

得票上位者を LMS 上で公開した（他者評価）。

前年度（2018 年度）より自己紹介で LMS 電子掲示板を利用していましたが、他者への興味や返信コメントへの関心から LMS へのアクセスが他科目より高かったため、2019 年度は②～④の課題を追加した。



図1 ①自己紹介&コメントの画面

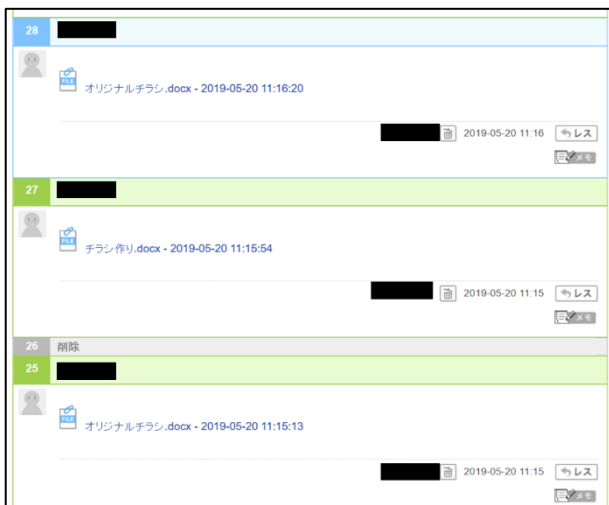


図2 ②Word で作成したチラシ提出の画面

3. LMS アクセス数とアンケート結果

上記の取組の結果、LMS のアクセス数がどのような結果になったか、また 2018 年度に比べどの程度増加したかを調査した。

表1 「コンピュータ演習 I」 ページビュー数

クラス（年度・曜日・時限） ※すべて看護学科	ページビュー クラス平均
2018 年度 月 1・2 限クラス	460
2018 年度 火 4・5 限クラス	495
2019 年度 月 1・2 限クラス	744
2019 年度 火 4・5 限クラス	809

2019 年度は前年度に比べ、電子掲示板のみならず課題を増やしたため表1は当然の結果ともいえる。

ただ、アクセス数を増加させたことで電子掲示板をはじめとしたより多くの LMS 操作に慣れさせることに寄与した。もちろんコンピュータ実技の科目であるため対面での教育・学習も行ったが、2019 年度は明文化した「態度目標」を設定するなどアクティブ・ラーニング型授業として工夫をすることで、各課題において互いに協力しあったり、教えあったりする様子が伺えた。これに関して独自アンケートを実施した結果が下記のとおりである。

	①主体的に学ぶことができた	②やや主体的に学ぶことができた	③あまり主体的に学ぶことはできなかった	④主体的に学ぶことはできなかった	
2. 「態度目標」があったことで本授業では主体的に学ぶことはできましたか？	42	12	1	0	
	①とても高まった	②やや高まった	③あまり高まらなかった	④全く高まらなかった	⑤学びあうことをしなかった
3. 「態度目標」に沿って他者と学びあうこと（協働学習）で学習効果は高まりましたか？	30	22	2	0	1
	①とてもよい	②ややよい	③あまりよくない	④全くよくない	
14. manabaの電子掲示板を利用した感想はいかがですか？（自分が書いたコメントをみなさんと共有・閲覧でき、返信などもできる機能です）	28	25	2	0	

図3 独自アンケートの結果（n=55）

以上のとおり、「主体的な学びの促進」「協働学習の成果」「LMS 電子掲示板の印象」において好意的・前向きな回答が得られた。

4. 今後の課題

授業内で CSCL をより多く採用し、LMS の利用率が大きく向上した。加えて、主体性や協働的な学習態度面に良好な結果が得られた。また、担当教員の目から見ても教室内での学びあいや教えあいなどがうまく機能していると感じた。

しかし一方で、電子掲示板の返信内容の稚拙さ（学習として相応しくないレベルのもの等）がいくつか見られた。また若干名ではあるがリテラシー向上が不足している者もみられた。これらについては今後さらなる検討・改善が必要と考える。

5. おわりに

以上のとおり一定の成果が得られた中で、上述のとおり若干の課題も明らかになった。今後も「コンピュータ演習 I」の担当継続が予想されるので、引き続き LMS 利用率の向上のほか主体的・協働的な学びの促進を図っていきたい。

参考文献

- (1) 庄司一也, 柴田 怜, “大学における情報教育の講義デザイナー—職業人に至るまでの初年次教育と学習継続力の一考察—”, 情報コミュニケーション学会 第 15 回情報教育合同研究会, Vol.16, no.2, pp.28-31 (2019) .